

魔法のプロジェクト報告書

報告者氏名:坂部 和宣 所属:春日井市立北城小学校 記録日:2021 年2月20日

キーワード:読み書き困難(書字困難)

【対象児の情報】

・学年

小学4年生の男児

・障害名

A 児:読み書きに課題がある(特に書字)

・障害と困難の内容

A 児:読み飛ばしが多い。書字が整わず、本人、支援者でも読めないことがある。

【活動目的】

・当初のねらい

読み書き(特に書字)が苦手な、漢字の書き取りや、作文などでつまづいている対象児に、やりやすい方法で書字ができないかと考えていた。

これまでモールやジオボードを使った文字を作成する指導をやってきた。字の形作りには一定の成果があった。しかし、ノートテイクでは字の形が崩れ、本人でも読めないところもあった。

対象児は書字に困難を抱えているため、iPad によって書字を支援することで、すっきりとしたノートテイクができ、自動的に iPad を使用することができるか観察することを目的とした。

・実施期間

令和4年4月21日～令和5年2月16日

通級指導の時間に指導するとともに、通級指導担当教員が在籍学級に入りサポートした。

・実施者

坂部和宣(学校心理士、公認心理師)

・実施者と対象児の関係

通級指導担当教員

【活動内容と対象児(群)の変化】

・対象児(群)の事前の状況

対象児は通常学級に在籍し、考えを発表するなどその力を発揮していたが、漢字の書き取りや作文の書字では苦戦していた。算数では特に筆算の過程を記すのが難しく、位がだんだんずれていき、正しい計算ができないこともあった。

・活動の具体的内容

1 連絡帳を iPad で入力するように指導をした。連絡専用ノートに翌日の連絡(時間割予定と持ち物など)を書いていたのを、iPad のメモアプリを使って入力し、毎日 iPad を持ち帰り家で画面確認するように指導をした。

2 国語、社会、理科、総合的な学習の時間では、主にワークシートを使用している。ワークシートを GoodNote5 アプリに取り込み、書く内容をテキスト入力(ローマ字入力)できるようにした。

3 算数の筆算は ModMathアプリを使い、画面に数字を入力して計算させるように指導した。

・対象児(群)の事後の変化

- 1 指導以後、対象児は自発的にメモアプリを使い続けることができた。結果的に忘れ物点数が減った。
- 2 国語、社会、理科、総合的な学習の時間に GoodNote5アプリでのテキスト入力、定着とまではいかないが、当初と比べてノートテイクが早くなった。アプリはいろいろ試したが、GoodNote5が使いやすいようだった。
- 3 算数 iPad ModMath アプリを使用しての計算は、ただ位をそろえるだけでなく、使うにつれて入力が早くなった。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

対象児はこれまで連絡帳を本人も、周囲の人も読みづらい字で書いていた。結果、忘れ物もあった。iPad のメモアプリを使い、テキスト入力をさせたところ、文字も読みやすくなったのか、忘れ物が減少した。

・エビデンス(具体的数値など)

4月の対象児の忘れ物の記録を取った。図1に、対象児の紙の連絡帳を使用しての忘れ物点数と、iPadメモアプリを使用しての忘れ物点数を時系列で表した。紙の連絡帳を使用していた時には、ほぼ1回/日の確率で忘れ物をしてしていたが、iPadメモアプリを使用してからは、4月22日以外は忘れ物が0になった。家から持ってくる物についてはおおむね、忘れ物が少なくなった。

・その他エピソード(画像などを含めて)

メモアプリを使用した連絡入力(写真1)は、毎日継続しており、対象児の朝の支度のルーティンの一部となった。

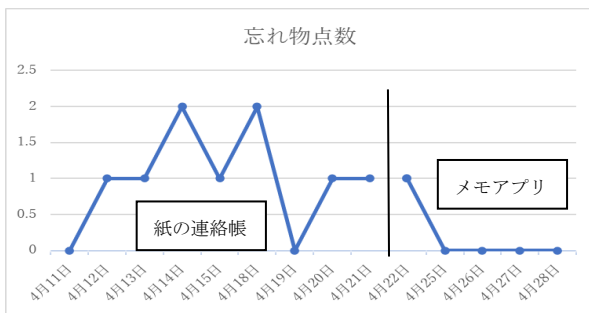


図1 忘れ物

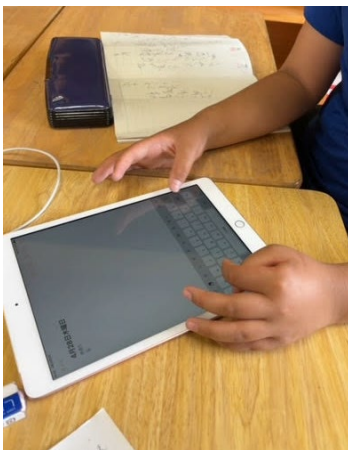


図2 連絡帳メモ

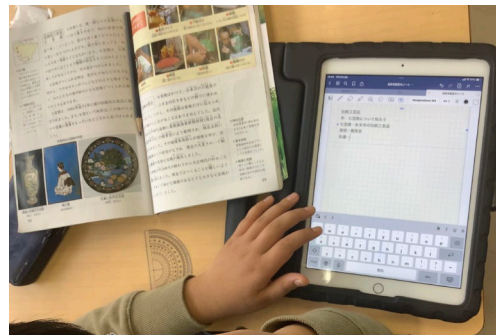


図3 社会 GoodNote5でノートテイク

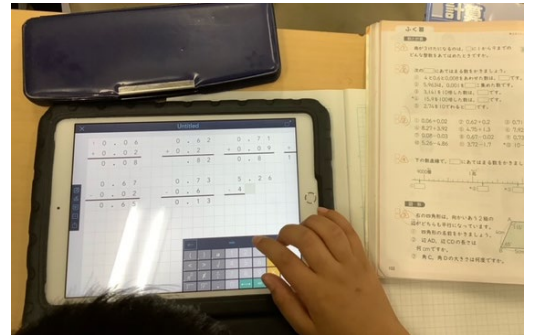


図4 算数 ModMath を使った筆算